

## ココにも歴史があった 石版画にみる関東大震災Ⅱ

昨年9月に文化観光課文化財係では、このコーナーにて寄贈された資料から関東大震災に関する画報（石版画）を紹介しました。区へ寄贈された石版画には他にも複数の関東大震災の被害状況を伝えるものがあり、昨年に続いて紹介します。

最後になりましたが、貴重な資料を寄贈していただいた方へ改めてお礼を申し上げます。

### 帝都大震災画報

上部右に「帝都大震災画報」と印刷され、上部中央にどの場所を描いたのかが記された石版画です。いずれも大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災における都内各所の状況が描かれています。文化財係へ寄贈されたものは、昨年度展示したものを含め8点あります。

寄贈資料はいずれも浦島堂画局(東京市浅草区・現台東区)から発行されています。震災が発生した翌月に発行されており、新聞の報道だけでは伝えられない震災当日の状況を視覚的に伝える役目があったと考えられます。



### 帝都大震災画報 新吉原遊廓花園池避難者乃惨状大混乱之眞景 大正12年(1923)10月

多数の死者を出した吉原公園内にある吉原弁天社前の池、弁天池(花園池)が描かれています。江戸以来の大遊廓である吉原では、火がかかった時点で芸妓・遊女・雇い人などを自由に避難させました。しかし、四方から迫る火炎に気圧されて、暑さから逃げるため、多くの人が弁天池へ飛び込みました。

展示資料では、まさに池へ飛び込もうとする人々が描かれています。池の底は泥状になっており、次から次に飛び込む人たちが池を埋める形になり、多くの犠牲者を生み出すことになりました。

## 被害を大きくしたもの

関東大震災は、地震の発生が昼食時（発生時刻は午前 11 時 58 分）であったため、使用中の七輪・かまど・ガスのなどの火が家屋に燃え移り、いたる所で火災が発生しました。江東区域の場合、旧深川区では 83.1%が焼失しました。

こうした火災による被害を大きくした要因の一つは、避難する人々の大八車やそこに積まれた家財道具です。逃げ惑う人々が衝突して混乱状態となり、消火作業の障害となっただけではなく、家財が延焼の媒介となって火勢を強くし、多数の人命が失われました。

展示資料の右隅に描かれているのは、被災者が持ち出した家財道具でしょうか。まさにその道具類に延焼しようとしています。さらに避難者の中にも荷物を抱えている人が大勢見られます。